

平成20年度事後評価結果（平成21年 3月）

[研究開発課題名] **従業員の健康情報のセキュアな管理と活用を実現する高次HRMシステムの研究開発**
 [委託機関名] **株式会社サイエンティア**

項目	評価	総合所見
総合所見	B	(技術関係) 技術的な観点について述べれば、今後重要性が増してくると考えられる健康情報管理を自社の人事システムとリンクさせて開発するというアイデア自体は悪くないものの実用化に向けて重要となる技術的な新規性や有用性を明確に説明できるような十分な研究成果が得られていない。まずは、競合する他のシステムとの包括的な比較が望まれる。その上で、本システムで最もアピールできる点を考慮し、そこに研究開発資源を集中的に投下して欲しい。評価者の判断では、本システムの最大のメリットは、日常的に医師とコミュニケーションできアドバイスを受け入れられるという点である。但しこれには医師の協力が不可欠であり、ただでさえ忙しいと言われる医師の負担を大きくしかねないので、システム運用までも含めてソリューションとして提案していただきたい。 開発したシステムには入力の手間がかかるなどの問題があり、近年の健康管理グッズの流れから考えれば、ユーザを取り込むための障壁が高くなってしまっている。システムの優位性に関する検証も、学術的には受け入れ難い内容にある。 本研究の目標達成、すなわちシステムの評価という観点について言えば、目標の達成度を議論するのに適切な実証実験やデータの取り扱いを実施していない点が最大の問題である。それ故、目標達成度を正確には判断できない。そもそも実証実験を自社内で行っているにもかかわらず、被験者である社員に対する強制が弱いようであり、会社としてこのプロジェクトを本気で成功させようとしているのかどうかやや疑問である（発表の際に社長が同席しなかったことにも表れているように思う）。今後、このような問題点をクリアした実証実験の実施を期待したい。
		(事業化関係) 受託者は、企業向けの類似製品Progress@Siteの販売実績、および実証実験における病院との連携により販路が確立されている。また、ソフトウェアの内製によりユーザの要望に合わせた製品の機能拡張が可能となっており、事業化の道筋は確立されている。また、資金計画の全体は明確になっていないが、2008年と2009年に予定された追記機能の開発は予定どおり進められているため、事業化計画は妥当である。 市場規模については、2008年に企業における健康データ管理が義務化されたが、製品の需要が発生するのはさらに3年後と予想されているため、現時点での売上の拡大は見込めないが、3年後以降の企業の健康データ管理の導入、健康意識の高まりによって、将来、大きな需要が発生すると考えられる。このため、今後10年間に於いて売上の達成と100%の売上納付が期待できる。 健康データ管理の普及の波及効果として、国民の健康増進による労働生産性の向上と医療費の削減、医師の負担の軽減が期待される。ただし、労働生産性の向上のためには、健康データ管理の参加者の負担にならないようなシステムの実現が必要であるが、実証実験の最終継続者が全体の32%と比較的少なかったため、参加者が無理なく継続できるための開発製品の改善が必要である。
		(評価がBになった原因に関する分析) (1)今後重要性が増してくると考えられる健康情報管理を自社の人事システムとリンクさせて開発するというアイデア自体は悪くないものの、実用化に向けて重要となる技術的な新規性や有用性を明確に説明できるような十分な研究成果が得られていない。 (2)競合する他のシステムとの包括的な比較が望まれる。その上で、本システムで最もアピールできる点を考慮し、そこに研究開発資源を集中的に投下する必要がある。 (3)本研究の目標達成、すなわちシステムの評価という観点について言えば、目標の達成度を議論するのに適切な実証実験の実施やデータの分析が十分にはなされていない。

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。